

平成 21 年 4 月 13 日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18320115
研究課題名 (和文) テル・タバン出土の楔形文字アッカド語文書の研究

研究課題名 (英文) Study of the Cuneiform Texts from Tell Taban

研究代表者

山田 重郎 (YAMADA SHIGEO)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授
研究者番号： 30323223

研究分野： アッシリア学 (楔形文字文書学)
科研費の分科・細目： 史学・東洋史
キーワード： 西アジア史、アッカド語、楔形文字、アッシリア学

1. 研究計画の概要

2005 年以来 2009 年現在に至るまでにシリア北東部ハッサケ州テル・タバン遺跡の発掘調査 (責任者： 沼本宏俊 [国土館大学]) により、多数の楔形文字文書が発見されている。これらは紀元前 18 世紀ならびに紀元前 13 世紀後半から前 11 世紀初頭にかけての行政文書 (受領書、契約文書、書簡) ならびに建築記念碑文であり、当該の時代におけるテル・タバン周辺地域の歴史と文化ならびにそのシリア・メソポタミア各地との関係について、新たな情報を提供する。本研究の目的は、日本隊によって発見され海外においても高い注目を集めるこの楔形文字文書群の解読と体系的な研究である。具体的には 2006 年度からの 4 年間に、2005 年以降の出土文書史料を整理し、それらの筆写、音訳、翻訳、および文献学的注釈を準備し、さらに新たに出土する文字資料の解読と整理を行い、それらの成果に立って、史料に文献学的、歴史学的考察を加えることを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 2005 年に出土した大量 (150～200 点と推定される) の中期アッシリア時代文書に関しては、大半はダマスカス博物館でクリーニングが済んでおり、これらの史料の撮影、記録、ハンドコピー作製、ならびに基礎的研究はおおむね終了した。これによって前 13 世紀におけるテル・タバンの地方王宮に由来する文書庫に含まれた文書の種類と書式 (物品管理記録、書簡、契約文書)、年代学的データ、カレンダー・システム等が解明された。これらについては、研究協力者の柴田が英文

で概報を出版した (2007 年)。ただし、2006 年に出土した 27 点については、ダマスカス博物館の改修工事などもあり、現地の保存処理担当の研究者によるクリーニングが終了していないため、未だに実質的には研究されていない。

(2) 2005 年以降 2008 年までに 100 点を超える中期アッシリア時代の建築記念埋蔵碑文が出土しており、これらについては、ハッサケのベースにおいて、毎年、写真撮影、ハンドコピー作製、解読を行い、史料を記録してきた。これによって前 13 世紀から前 11 世紀にかけてテル・タバンを本拠地に周囲を統治した 10 名ほどの領主の名とその血脈、ならびに建設事業の詳細が明らかになった。これに関しては、山田と柴田が英文で概報を準備した (2009 年出版予定)。

(3) 2005 年と 2006 年に出土した 25 点の古バビロニア時代粘土板文書については、写真撮影、ハンドコピー作製、解読ならびに基礎研究を行い、これによって前 18 世紀半ば、バビロンのハンムラビ王の支配後、バビロンに変わってユーフラテス中流域の主要都市テルカの王権が、テル・タバン周辺を含む地域を支配したことが証明された。これについては、山田が英文で概報を出版した (2008 年)。

(4) 2008 年 7 月、山田 (研究代表者) と柴田 (研究協力者) がドイツで開催された国際アッシリア学会において、テル・タバン出土楔形文字アッカド語史料に基づいて、それぞれ古バビロニア時代と中期アッシリア時代における当該地域の政治的・社会的・文化的諸相について研究を発表した。これによ

て、前2千年紀のハブル川流域の状況を伝えるテル・タブン出土の新データとその分析が初めて国際学会で報告された。

3. 現在までの達成度

以下に示す課題を残しつつも、研究は、おおむね順調に進展している。

課題1：ダマスカス博物館修復による粘土板のクリーニングの遅延：これにより中期アッシリア時代と古バビロニア時代の文書の一部の研究が手付かずとなっている。

課題2：研究対象の拡大：2006年以降のテル・タブンの発掘によって、新たな中期アッシリア時代建築碑文と古バビロニア時代粘土板文書が発見され、今年度もまた新たな発見が予想される。これらの文書は、2005年までに出土した文書と文献学的、歴史的に密接に関わるものであり、これらの文書の基礎研究を遅延なく行う必要もあり、すべてのデータに関する包括的かつ完全な研究報告には、なお時間を要する。

4. 今後の研究の推進方策

上述した課題を受けて（博物館側の事情によるクリーニングの遅延、ならびに新資料の出土）、最終年度の目標を以下の3点としたい。

(1) 今年度出土するであろう新資料の研究とこれまで出土した資料の基礎研究。

(2) これまでに出土した資料について、まだ作成していない概報（2008年度分）の作成。

(3) 出土資料全体を総括するレポートの作成と、重要事項についての個別研究の促進。

(4) 新たに必要となった更なる研究課題の整理と次なる研究計画の立案。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① Shigeo Yamada: “Preliminary Report on the Old Babylonian Texts from the Excavation of Tell Taban in the 2005 and 2006 Seasons: The Middle Euphrates and Habur Areas in the Post-Hammurabi Period,” *Al-Rāfidān* 29 (2008), pp. 47-62.

(査読無)

② 山田重郎・柴田大輔「2007年シリア、テル・タブン出土楔形文字文書」『平成19年度考古学が語る古代オリエント—第15回西アジア発掘調査報告会報告集』、西アジア考古学会、2008、16-19頁 (査読無)

③ Daisuke Shibata: “Middle Assyrian Administrative and Legal Texts from the 2005 Excavation at Tell Taban: A Preliminary Report” *Al-Rāfidān* 28 (2007), pp. 169-180 (査読無)

[学会発表] (計2件)

① Shigeo Yamada: “The City of Tabatum and Its Surroundings: The Organization of Power in the Post-Hammurabi Period,” 54. *Rencontre Assyriologique Internationale* (2008.7.23, Würzburg, Germany)

② Daisuke Shibata, “The City of Tabatu and the Kings of the Land of Mari. Documents for the Administration of a Middle Assyrian Local Principedom,” 54. *Rencontre Assyriologique Internationale* (2008.7.23, Würzburg, Germany)

[図書] (計1件)

① Daisuke Shibata, Shigeo Yamada: “The Cuneiform Texts from the 2007 Excavations at Tell Taban: A Preliminary Report,” in Hirotohi Numoto (ed.), *Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria: Preliminary Report on the 2007 Season of Excavation and the Study of Cuneiform Texts*, Tokyo, 2009, pp. 87-109.